

「第23回アートフィルム・フェスティバル」

The 23rd Art Film Festival

開催日：2018年10月26日(金)～11月4日(日) *10月29日(月)休館

会場：愛知芸術文化センター12階アートスペースA

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2

主催：愛知県美術館

Trl. 052-971-5511(代) Fax. 052-971-5604

<http://www-art.aac.pref.aichi.jp>

入場無料



勅使川原三郎『T-CITY』1993年、愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品 Photo: Martin Richardson

「アートフィルム・フェスティバル」は、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリー、フィクションなどの枠にもおさまらない、映像表現の先端的な動向を紹介する特集上映会です。

愛知芸術文化センターの開館記念日にあたる10月30日に前後して開催する今回は、勅使川原三郎が監督し山口小夜子らが出演した『T-CITY』(1993年)等を取り上げ、映像とパフォーマンス・アーツの関係性について考察します。また「オリジナル映像作品」最新作として完成した、小森はるか『空に聞く』(2018年)を初公開するとともに、事件や事故に向き合うことで撮影されたドキュメンタリー作品を併せて上映します。

■特集「映画は如何にパフォーマンスを撮るか？」

映像メディアが演技する人間をどうとらえるかは、映画初期のリュミエールやメリエスの時代から、大きな問題として浮上しています。平凡な日常の情景を据えっぱなしのカメラで撮っただけに見えるリュミエールの作品には、一方で起承転結のドラマが内包され、演劇的な側面があることも指摘されています。また、今日のCGやVFXの原点といえるトリック撮影の創始者・メリエスの作品は、奇術や魔術など舞台芸の記録から出発し、その原理を映像において応用、発展させたものといえるでしょう。

生身の人間が舞台上で演じる迫力や実在感が、機械的な記録＝映像に写し取る段階で希薄化し、喪失してしまうのは必然といえます。映像表現の展開は、編集や特撮的な技法を用いてそれをどう補ってきたかの歴史である、ともいえるでしょう。しかしながら、舞台を記録に徹して撮れば退屈といわれ、編集やエフェクトを加えれば舞台の空気が消えると難じられてしまう。つまり、映像とパフォーマンスの間には、常に相反する要素がせめぎ合ってきたのです。しかしこの領域では、ジョナス・メカスの『営倉』（1964年）のように、演劇公演を切れ目なく丸ごと撮影しながら、その実在感や生気までも映像化するような、奇跡的な傑作が生み出されてきたのもまた事実です。

本特集は、この古くて新しい永遠のテーマを改めて取り上げ、様々な作家がこの問題にどう取り組んできたかをたどるものです。

●特集の見どころ

パフォーマンスの源流であり、芸術の根源ともいえる民俗芸能を扱った吉田喜重『愛知の民俗芸能』二部作(1992-93年)から、舞踏映画の代表作・長野千秋『O氏の肖像』（1969年、出演：大野一雄）や、コンテンポラリー・ダンスとビデオ・アートの交点に生まれたベルナール・エベール『ラララ・ヒューマン・セックス・デュオ No.1』（1987年、出演：ラララ・ヒューマン・ステップス）、音楽制作の現場を取材し、その過程から立ち上がる身体性を掬い上げた三宅唱『THE COCKPIT』（2014年、出演：OMSB、Bim）、さらに美術におけるパフォーマンスの映像化という側面を持つビル・ヴィオラ『四つの歌』（1976年）まで、パフォーマンス×映像という試みから生まれた、多彩な作品に触れられるでしょう。

また、当センター・オリジナル映像作品である柴田剛『ギ・あいうえおス - ずばぬけたかえうた - 』（2001年）に続く作品として、山口情報芸術センター〔YCAM〕が制作した『ギ・あいうえおス 他山の石を以って己の玉を磨くべし』（2016年）や、卒業制作ながら磨赤兒や伊藤キムを出演させた意欲作・米倉伸『たおやかに死んでいる』（2017年）など、最新の話題作を取り上げる他、近年、岩田信市と加藤好弘の主要メンバーが亡くなった、1960年代の前衛的なパフォーマンス・グループ「ゼロ次元」が出演する、金井勝『無人列島』（1969年）を、〈追悼；ゼロ次元〉として上映します。

さらに、振付家・ダンサーが自らのコンセプトを映像表現により具現化した事例として、勅使川原三郎の初監督作品『T-CITY』（1993年）を上映します。

最終日となる11月4日(日)のプログラムとして〈表現者・山口小夜子の軌跡〉を行います。山口小夜子は今日の「スーパーモデル」の先駆的存在として、国際的に活躍したことで一般に知られていますが、後年、その表現の幅を広げ、ダンスやオペラ、映画の他、若手アーティストとの実験的なパフォーマンスにも積極的に取り組みました。こうした、山口小夜子の知られざる側面を掘り下げた、松本貴子の意欲的なドキュメンタリー『氷の花火 山口小夜子』(2015年)を上映します。また、山口小夜子と親交のあった黒田育世(BATIK 主宰、振付家、ダンサー)の講演(共催:愛知県芸術劇場)を行い、本特集を締め括ります。

■愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品最新第27作初公開

小森はるか『空に聞く』

美術館と劇場の複合文化施設である愛知芸術文化センターは、「身体」をキーワードとして映像作品を制作しています。これまでに作られた作品は、国際映画祭への出品や受賞といった実績を重ねてきました。(愛知県美術館所蔵。過去の作品は、アトライブラリーでも視聴できます。)

平成29年度制作の最新作は、東日本大震災で被災した陸前高田で、津波で流失した店の跡地にプレハブを建て営業を続ける種苗店取材したドキュメンタリー『息の跡』(2016年)で、高い評価を得た小森はるかが担当。『空に聞く』(2018年)は、小森が引き続き陸前高田に寄り添うように撮った最新作で、同地で行われる災害FMの活動と、再生しつつあるコミュニティの姿を、繊細な感覚で掬い取っています。

上映に合わせて小森監督を招きトークを行う他、関連する作品も上映します。



小森はるか『空に聞く』2018年、愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品

■同時開催 「ムービング・イメージ・フェスティバル(MIF)2018」

映像メディアのデジタル化を背景として、昨今の学生作品のクオリティの向上は、目を見張るものがあります。ムービング・イメージ・フェスティバル(MIF)では、ICAFやISMIEなど、全国の映像系教育機関より選出された学生作品の「今」を紹介します。また、近隣の芸術系大学や映像系専門学校より選出した特別上映プログラムのほか、参加校の教員や出品学生によるトークも予定しています。

主催：愛知県美術館、ムービング・イメージ・フェスティバル(MIF)2018 実行委員会<予定>

共催：インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル2018 実行委員会、日本映像学会映像表現研究会

協力：名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科

10月29日(土)「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル(ICAF)2018」ほか

10月30日(日)「インターリンク：学生映像作品展(ISMIE)2018」ほか

会場：アートスペースA

入場無料

■上映スケジュール

〈源流としての民俗芸能〉

2018年10月26日(金)

17:00 吉田喜重『愛知の民俗芸能－聖なる祭り 芸能する心』1992年、31分、ビデオ ※

〃 『愛知の民俗芸能－都市の祭り 芸能する歓び』1993年、29分、ビデオ ※

18:30 三宅流『究竟の地－岩崎鬼剣舞の一年－』（劇場公開版）2008年、128分、ビデオ

作品提供：三宅流

27日(土)

13:30 「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2018」ほか

*上映作品等の詳細はウェブサイト (<<http://www.icafe.info/>>) をご覧ください。

28日(日)

13:30 「インターリンク：学生映像作品展 (ISMIE) 2018」ほか

*上映作品等の詳細はウェブサイト (<http://d.hatena.ne.jp/e_h_kenkyu/>) をご覧ください。

29日(月)休館

〈ダンス、演劇を撮る〉

30日(火)

17:00 ジョナス・メカス『カップ/ソーサー/2人のダンサー/ラジオ』1983年(撮影：1965年)、23分、16mm(ビデオ上映) 出演：ケネス・キングほか ※

17:30 〃 『営倉』1964年、66分、16mm(ビデオ上映) 共同監督：アドルフ・メカス 出演：リビング・シアター ※

- 19:00 ベルナル・エベール『ルイスとサルバドールの犬』1984年、5分、ビデオ ※
 〃 『ラララ・ヒューマン・セックス・デュオ No. 1』1987年、7分、ビデオ
 出演：ラララ・ヒューマン・ステップス ※
 〃 『ルームス』1988年、11分、ビデオ ※
19:30 ベルナル・エベール『ベラスケスの小さな美術館』1994年、53分、35mm(ビデオ
 上映) 出演：ラララ・ヒューマン・ステップス ※

〈暗黒舞踏との交錯〉

31日(水)

- 15:00 長野千秋『O氏の肖像』1969年、65分、16mm(ビデオ上映) 出演：大野一雄 ※
16:30 ビデオインフォメーションセンター 手塚一郎『ラ・アルヘンチーナ頌』初演 1977
 年、70分、ビデオ 演出：土方巽 出演：大野一雄 ※
18:00 エディン・ヴェレツ『ダンス・オブ・ダークネス』1989年、55分33秒、ビデオ
 出演：大野一雄、磨赤兒、大須賀勇ほか ※
19:00 米倉伸『たおやかに死んでいる』2017年、76分、ビデオ
 出演：磨赤兒、伊藤キムほか 作品提供：米倉伸 ◎監督来館予定
 〈音楽創造=映画〉

11月1日(木)

- 16:30 三宅唱『THE COCKPIT』2014年、64分、ビデオ 出演：OMSB、Bim ★
18:00 柴田剛『ギ・あいうえおス - ずばぬけたかえうた - 』2010年、56分、ビデオ ★
19:00 〃 『ギ・あいうえおス 他山の石を以って己の玉を磨くべし』2016年、86分、
 ビデオ 出演：ヒスロムほか 作品提供：柴田剛 山口情報芸術センター
 [YCAM] 委嘱作品/YCAM Film Factory vol.1 ◎監督来場予定
 〈美術系パフォーマンスと映像〉

2日(金)

- 17:30 ジョナス・メカス『イン・ビトゥイーン』1976年 撮影：1964-68年、53分、
 16mm(ビデオ上映) 出演：サルバドール・ダリほか ※
18:45 ビル・ヴィオラ『四つの歌』1976年、33分、ビデオ ※
 〈追悼：ゼロ次元〉
19:30 金井勝『無人列島』1969年、55分、16mm 出演：串田和美、ゼロ次元ほか
 作品提供：かない勝丸プロダクション
 〈愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品最新第27作初公開〉

3日(土)

- 11:00 オリヴィエ・バビネ『スワッガー』2016年、84分、ビデオ 作品提供：アリアンス・
 フランセーズ愛知フランス協会、アンスティチュ・フランセ
13:30 船橋淳『放射能』2013年、35分、ビデオ ★
 小森はるか『根をほぐす』2018年、18分、ビデオ 作品提供：小森はるか

14:30 // 『空に聞く』2018年、66分、ビデオ 愛知芸術文化センター・愛知県
美術館オリジナル映像作品最新第27作

◎上映終了後、小森はるか監督によるトークを行います。

4日(日)

〈ダニエル・シュミット×大野一雄〉

15:00 ダニエル・シュミット『KAZUO OHNO』1995年、15分、35mm 出演：大野一雄、
大野チエ ★

// 『稽古場の大野一雄』1995年、13分、ビデオ(撮影：16mm)
旧題：『ダニエル・シュミット、レナート・ベルタ撮影による
未使用フィルム』 *

〈勅使川原三郎の映像世界〉

15:45 勅使川原三郎『ケンオコ』1993年(撮影：1990年)、10分、35mm 撮影：荒木経惟 ※

// 『T-CITY』1993年、28分、35mm 出演：山口小夜子、宮田佳ほか ★

〈表現者・山口小夜子の軌跡〉

16:45 松本貴子『氷の花火 山口小夜子』2015年、97分、ビデオ 作品提供：(株)コンパス

◎上映終了後、山口小夜子と親交のあった黒田育世(BATIK 主宰、振付家、ダンサー)
の講演を行います(共催：愛知県芸術劇場)

★：愛知県美術館蔵

※：アートライブラリー蔵

*： // (大野一雄ビデオ・ライブラリー)

「愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品」は、文化情報センターによる実験的な映像作品の制作プログラムとして1992年の開館時にスタート。センター内の組織改編に伴い、2014年より、美術館が映像作品として収蔵するとともに、制作を継承しています。

○「第23回アートフィルム・フェスティバル」は「愛知芸文フェス」および「久屋ぐるっとアート」(11/2(金)～4(日))に参加しています。

広報掲載に関する問合せ先

ご掲載記事について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷りを次までFAX もしくはメールでお送りいただきますようお願い致します。

広報担当: 白井 FAX: 052-971-5604 TEL: 052-971-5511(代) email: art11@aac.pref.aichi.jp

上映会の内容に関する問合せ先

アートフィルム・フェスティバル担当: 越後谷 TEL: 052-971-5511(代)

記事等には、本上映会の問合せ先として以下をご掲載ください。

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 TEL: 052-971-5511(代) FAX: 052-971-5604

ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

記事作成に関するお願い

画像(図版)をご使用の際は、「配布用画像用キャプション」内の情報を必ずご明記ください。開館中に展覧会会場を写真撮影される場合、フラッシュを伴う撮影はご遠慮いただきますようお願い致します。フラッシュによる撮影をご希望の方は、展覧会一般公開前日の内覧会の際か、休館日、もしくは閉館時間にお問い合わせ致します。